図画工作の実践事例

1 学習評価のポイント

図画工作科における表現や鑑賞の活動の過程では，児童一人一人の資質や能力が生き生きと働いています。これらの児童の姿に寄り添い，育ちを確かめる行為が評価です。

図画工作科の評価の４観点は，これまでの名称と変わらず，その趣旨もほぼ同じです。図画工作科で大切にしてきた指導や評価の４観点をそれぞれの題材において明確にし，具体的な指導と評価の手だてを設定していくことが求められています。

学習指導要領の改訂により，図画工作科において領域や項目などに共通する資質や能力が〔共通事項〕として示されるとともに，言語活動をこの〔共通事項〕の視点なども活用しながら充実させることが求められています。〔共通事項〕は，児童の活動を具体的に捉え，図画工作科の基礎的な能力を育て，造形活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられたものです。形や色，イメージなどの〔共通事項〕の視点から児童の学習内容を明らかにし，目標が達成された状況を具体的な姿で想定して見取っていくことが大切です。

〔共通事項〕（第５学年及び第６学年）※取り上げる実践事例が第5学年の実践のため，該当学年のみ提示

ア　自分の感覚や活動を通して，形や色，動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。

2 学習評価のポイントを踏まえた学習指導と評価の実際

ここでは，第５学年「『そのば』くん登場」の実践事例を基に，形や色，イメージなどの〔共通事項〕の視点から児童の学習内容を明らかにし，図画工作科の評価の４観点ごとに目標が達成された状況を具体的に設定した学習評価の在り方を示します。

１　題材名　「そのば」くん登場（第５学年）

（身の回りの顔に見える場所をカメラで写し取り，「そのば」くんとして表現していく題材です）

２　目標

・場所の面白さや特徴を見付け，自分の表したい感じが出るように絵に表すことを楽しもうとしたり友達の作品のよさなどを自分なりの見方で味わおうとしたりする。〔造形への関心・意欲・態度〕

・見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき，自分のイメージや表したい感じに沿って，自分らしい表し方を構想する。〔発想や構想の能力〕

・自分の表したい感じが出るように，様々な表現方法や材料などを選んだり，組み合わせたりしながら表し方を工夫する。〔創造的な技能〕

・身の回りの場所から造形的な面白さや特徴を捉えたり，自分たちの作品の表現のよさを感じ取る。〔鑑賞の能力〕

「ゆかいなロボットコンテスト（部分）」

３　評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現・関①自分の表したい「そのば」くんを思いつき，その感じが出るように絵に表すことを楽しもうとしている。 鑑賞・関①場所の面白さや特徴，友達の作品のよさなどを自分なりの見方で味わおうとしている。	発①見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき，自分のイメージや表したい感じに沿って，自分らしい表し方を構想している。	技①自分の表したい感じが出るように，様々な表現方法や材料などを選んだり，組み合わせたりしながら表し方を工夫している。	鑑①身の回りの場所から形や色などの造形的な面白さや特徴を捉えている。 鑑②自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合い，表現のよさを感じ取っている。

Point1　〔共通事項〕の視点で児童の姿を具体的に捉えること

学習指導要領で設定された〔共通事項〕は，児童の活動を具体的に捉え，図画工作科の基礎的な能力を育て，造形活動や鑑賞活動を豊かにするために設けられました。そこで，表現や鑑賞の各題材について，そのねらい，児童の学習活動，指導方法などを〔共通事項〕の視点で見直すとともに，児童の具体的な活動を考えながら指導を工夫し改善することが求められています。例えば，一つの題材の評価規準を考える際に，形や色，イメージなどの〔共通事項〕の視点から児童の学習状況を明らかにし，目標が達成された状況を具体的に設定していくことが大切です。具体的には「工夫して表すことができる」としていた評価規準を，「児童が自分で選んだ形の組合せを考えながら表すことができる」といったように，〔共通事項〕を手がかりに具体的な活動へと見直してみるとよいでしょう。

Point2　ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること

図画工作科において「思考力・判断力・表現力」を育成していくためには，主に「発想や構想の能力」や「鑑賞の能力」を働かせる場面において言語活動を適切に位置付け，指導し評価していくことが大切です。その際，ワークシートを活用することは，児童の学習活動や自己評価において効果的であると同時に，教師による評価として重要な資料にもなります。題材のねらいに即して書き込ませる内容を精選するなど，発達段階を踏まえて「どの題材のどの場所に位置付けるか」「どの程度の時間を費やすか」などに配慮する必要があります。また，感想だけでなく，それが作品のどこからそう思ったのかを問うことで，根拠が明確に分かるような形式にしたり，一人一人の発想の特徴が捉えられるイメージマップのような形式にしたりすることも有効です。

4　指導と評価の計画（全７時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				指導と評価の留意点，評価方法等
			関	発	技	鑑	
一	1	○場所の面白さや特徴を見付け，学習のめあてをもつ。 「モップがタバコをくわえた顔にみえたよ!」 **評価の観点を絞る** 37ページの評価規準を指導計画に位置付けています。１単位時間の中で評価する観点をできるだけ絞り込むようにします。第一次では授業の後半で「鑑賞の能力」を「関心・意欲・態度」と合わせて見取るようにします。	鑑賞 関①			鑑①	鑑賞・関① 題材に関心がもてなかったり，場所の面白さを探せなかったりする児童を把握することに重点を置き，それらの児童の関心や意欲が高まるよう声かけをする。 **〔造形への関心・意欲・態度〕** （行動の観察，対話） 鑑① グループに１台ずつディジタルカメラを持たせ，身の回りの場所などから「顔」に見える面白さや特徴を撮影する活動を設定し，撮影した画像や撮影の様子を観察して評価していく。 **〔鑑賞の能力〕** （行動の観察，ディジタルカメラの画像）
二	1本時，2	○見付けた場所の特徴などを基に，どのような「そのば」くんにするかを考える。 ・画像コーナーで選んだり，アイデアスケッチを描					発① ここで想いを広げたり表したい「そのば」くんを思いついたりすることができるかどうかは，その後の製作に大きく影響を与える。そこで，画像コーナーを設け画像を選んだり，必要に応じて何枚もアイデアスケッチを描け

いたりする。
・ワークシートに今考えている表したいことや表したい感じを端的に言葉で表す。

ワークシートの活用

ワークシートは児童の学習活動や自己評価であると同時に，評価の際の重要な資料となります。題材のねらいに即して書き込ませる内容を精選することが大切です。本題材では一人一人の発想のよさや特徴を捉えたり，言葉や文字を使って思いを広げさせたりするねらいから，表したい感じなどを記述することができるワークシートを活用し，指導や評価に生かそうとしています。

・友達の作品を見合い，一人一人が思いついたことを自由に出し合う。

表現関①　発①

るようにしたりするなどの手だてを講じ，観察や対話などを通して見取るようにする。　〔発想や構想の能力〕
（行動の観察，対話，ワークシート，作品）

行動の観察や対話による評価

「発想や構想の能力」は本題材で重点を置く評価の観点です。児童が「何を感じ，何を考えているのか」などは，観察を通して児童の動きや視線，会話などを捉えることでおおむね理解することができます。また，児童と対話をすることでより表現の意図が確かになったり，児童の新たな発想に気付いたりすることもあり，このような方法を組み合わせて評価し，指導に生かしていきます。

・自分らしい発想で工夫している児童の活動の様子を称賛する。

Point1　〔共通事項〕の視点で児童の姿を具体的に捉えること

称賛する教師の言葉も〔共通事項〕の形，色，イメージなどの視点に着目し，「よく描けているね」と言っていたところを「〇〇な形が繰り返し描かれていて，表現したい〇〇なイメージに近付いているね」のような具体の姿が分かる言葉にしていくことが大切です。

3～5

〇表したい感じが出るような表現方法などを工夫する。

発と技は相互に関連　数単位時間の中で評価

「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の表現に関する能力は，相互に関連し合い高まっていくものであることから，数単位時間という期間の中で評価していくことも大切です。その際，前半は，特に「努力を要する」状況（C）の児童を中心に指導し，完成が近付いた段階で評価を確定していくようにします。また，その時間に中心的に見取っていく観点とは別に，「造形への関心・意欲・態度」も含め特徴的なものについては記録を残し，評価していくようにします。

ディジタルカメラの活用

ディジタルカメラを用いることで，作品の途中の段階や特徴的な活動の様子などが記録できます。それによって表現のプロセスが捉えやすくなり，児童が発揮している「発想や構想の能力」や「創造的な技能」などを具体的に分析することができます。また，撮影すること自体に〈児童を称賛する〉〈自己評価を促す〉効果もあります。

表現関①　発①　技①

表現・関①　第二次を「発想や構想の能力」と「創造的な技能」のそれぞれに向かう「関心・意欲・態度」として一つの評価規準で見取っていく。具体的には，発想や構想の場面では，どのような「そのば」くんにするかを画像コーナーで試したり，ワークシートを使ったり，友人の作品のよさを探そうとしたりしているかを，創造的な技能の場面では，材料や表現方法を表したい感じに合わせて絵に表すことを楽しもうとしているかを見取る。
〔造形への関心・意欲・態度〕
（行動の観察，対話，作品）

技①　前半は自分の表したい「そのば」くんの感じを出すことが考えられているかを見取り，できていない児童に対して，思いを語らせるなどの指導を行う。製作が進んだ段階では，表現意図に合わせ様々な表現方法や材料などを選んだり，組み合わせたりしているかを見取り，完成に近付いた段階で評価を確定する。
〔創造的な技能〕
（行動の観察，対話，作品）

・活動の様子や作品の変化の様子をディジタルカメラで撮影し，表現や製作過程を紹介したり，評価に生かしたりする。
・様々な表現方法や材料を選んだり，組み合わせたりしながら表現を工夫している児童を称賛する。

三	1	○自分たちの作品について感じたことや思ったことを話し合う。 ・互いの作品のよいところを見付け，そう感じた理由を明確にして表現のよさや面白さを伝え合う。	鑑賞関①			鑑②	鑑賞・関① 鑑賞への関心をもっているかどうかを相互鑑賞の活動や話し合いの様子から見取り，鑑賞への意欲が高まらない児童へは鑑賞の視点などをアドバイスする。 〔造形への関心・意欲・態度〕 （行動の観察，対話） 鑑② 自分たちの作品の形や色など造形的なよさや面白さなどについて感じたことや思ったことを話し合わせ，表現のよさを感じ取れているかを見取る。 〔鑑賞の能力〕 （ワークシートの記述，対話）

言語活動を通して高める鑑賞の能力

「鑑賞の能力」は，感じたことや思ったことを話したり書いたり，友人と話し合ったりするなど言語活動を通して高めていくことができます。自分たちの作品を相互に鑑賞する活動では，表面的に作品を見させるだけでなく，形や色，イメージなどの〔共通事項〕の視点を意識して見させることが大切です。本題材では，お互いの作品のよいところを見付け，〔共通事項〕を手がかりに具体的な表現のよさや面白さを伝え合うなどして，作品を見る視点がつかめるよう工夫しています。

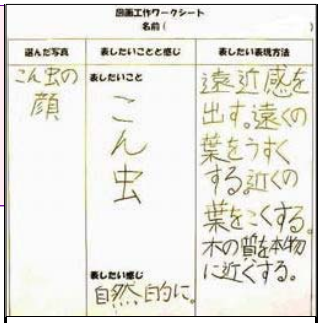
5　本時案（第二次　第１時）

(1)　本時の目標

見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき，自分のイメージや表したい感じに沿って，自分らしい表し方を構想する。

(2)　展開

学習活動	指導上の留意点	学習評価
1　本時のめあてをつかむ。	○本時のめあてを伝えるとともに，前時の学習活動の成果を称賛し，意欲と見通しをもって本時の学習に取り組めるようにする。	
お気に入りの写真の特徴から発想して，面白い「そのば」くんを考えよう		
2　様々な写真の中から絵に表したいお気に入りの写真を選ぶ。 3　選んだ写真を基に発想や構想を広げる。	**Point2 ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること** **○画像コーナーを設け，友達と自由に作品を見合い，一人一人が思いついたことを自由に出し合うことで想いを広げたり，作品づくりのイメージを膨らませたりできるようにする。** ○選んだ写真をＡ４用紙の様々な場所に配置したり配置を変えたりさせながら，発想や構想を広げることができるようにする。 ○画像コーナーは，必要なときにいつでも写真が選べるようにしておく。 ○何枚もアイデアスケッチを描けるよう準備するとともに，表しながら構図を考え直すことができるようにする。 ○写真から何かに見立てている児童の想いを共感的に称賛し，意欲を高める。	**Point1** **〔共通事項〕の視点で児童の姿を具体的に捉えること** **○見付けた場所の形や色などの面白さや特徴などから描きたいものを思いつき，自分のイメージや表したい感じに沿って自分らしい表し方を構想している。** **〔 発想や構想の能力 〕** **（行動の観察，対話，アイデアスケッチ，ワークシート）**

言語活動を活用したワークシートの工夫	○選んだ写真をＡ４用紙に配置し，絵に表していく活動が進みつつあるところで「表したいこと」と「表したい感じ」「表現方法」などを書き込めるワークシートを配付し，言葉で端的に表し，より明確にイメージをもつことができるようにする。	
	○ただし，発想や構想が次々と連続する過程であることを考慮し，後でつくり変えてもよいことを伝えておく。	ワークシートの例
Point2 ねらいを達成するための言語活動を位置付け見取ること	○発想や構想の途中で，友人のアイデアスケッチを見る時間を設定し，一人一人が思いついたことを自由に出し合うことでお互いに発想や構想を刺激し合いながら造形活動が行えるようにする。	
	○形や色に関する気付きや写真を生かした発想の試みなど，感覚を生かしながら自分らしい発想で工夫している児童の活動の様子などを共感的に称賛する。	Point1 〔共通事項〕の視点で児童の姿を具体的に捉えること
	○発想が停滞している児童には，表したいことや表したい感じを簡潔に話すことで自分の思いを確かにできるようにする。	
4　学習を振り返る。	○自己評価カードに本時のまとめを記入させる。 ○発想や構想がある程度膨らんできた段階で四つ切り画用紙に表す活動に入ることを伝える。	

6　指導と評価の実際

(1)　「おおむね満足できる」状況（B）以上と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆選んだ写真を配置したり絵に表したりしていく中で，その児童なりに形や色，イメージなど〔共通事項〕の視点などで捉え，面白い感じを思いついている姿を「おおむね満足できる」状況（B）として主に観察や対話，作品などから捉えました（**図１，２**）。

◆本時の活動で見取る評価の観点は，「発想や構想の能力」が中心であり，これは「創造的な技能」との関連の中で評価していくことが大切です。したがって，本時での評価は「おおむね満足できる状況」（B）以上とし，次時からの授業も含めたある程度の期間の中で児童の質的な高まりを継続的に見取っていくようにします。

図１　はさみで画像を切る児童

はさみで画像を切り始めた児童は，場所の形や色の造形的な特徴を思いつき，自分の描きたい「そのば」くんのイメージが少しずつもてている状況です。

切り取った写真をアイデアスケッチの紙の上に置いて，配置や大きさなど，自分の表したい感じにするために構想を練っている姿であり「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。

図２　構想を練る児童

(2) 「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の様子

《判断のポイント》

◆「おおむね満足できる」状況（B）から，「主体的」「継続的」「総合的」などのキーワードを基に質的な高まりが捉えられた状況を，「十分満足できる」状況（A）と判断し，見取るようにしました。例えば，この児童は，配電盤の下部に「顔」に見える形を見付け，撮影したものを上下逆にして，その四角い形からロボットをイメージし，上を向いている感じから手を上に上げて作業しているデザインを考えました。形の特徴に着目し，多様な視点から総合的に考え，豊かな発想力を発揮した姿としてAと評価しました（**図３～５**）。

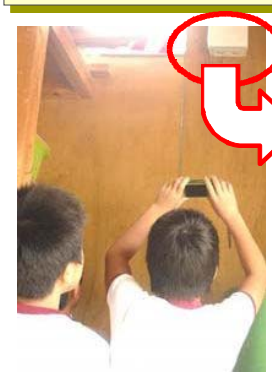


図３ 撮影の様子

図４ 撮影された画像

四角い形から「ロボットにしようかな…」 上を向いている形を見付け「手を上げて作業しているようにしよう」

図５ 完成作品「ゆかいなロボットコンテスト（部分）」

(3) 「努力を要する」状況（C）が生じないように行った支援

《具体的な支援》

◆本時の「発想や構想の能力」の観点では「努力を要する」状況（C）と判断する児童がいませんでした。これは，授業者が，

①児童の予想されるつまずきや悩みをしっかり予測し，画像コーナーで友達と自由に見合いながら想いを広げる場面を設定していた。

②アイデアスケッチを互いに見合って友達の発想に触れさせる場面を設定していた。

③いきなり絵を考えさせずワークシートを準備し文字で考えさせていた。

など，深い教材研究に基づいた配慮が十分行われていたからです（**図６，７**）。

図６ 画像コーナーの様子

友人と写真を見て話をしているといろいろなアイデアが湧いてくる。表したい思いをしっかりもてるようにするため，画像コーナーは一か所で話し合いが自然とできる環境がつくられています。

発想の段階でつまずきの見られる児童が予測される場合は，短時間でも友達のアイデアに触れる時間を設定してみましょう。

図７ アイデア交流の様子

3 今後の学習評価に向けて

本実践のすばらしさは，〔共通事項〕の視点を生かした十分な児童理解にありました。表現の活動では，できあがりつつある作品や完成した作品ばかりから見取るだけでなく，形や色，材料などと関わりながら，常に自分の資質や能力を発揮している児童の動きや姿に注目し，これらを的確に捉えて評価し，助言，示唆などの指導を行っています。児童の作品をディジタルカメラやＶＴＲで録画したり，アイデア表などの学習カードを有効に活用したりするなどし，活動の理由やその成果を分析的に確かめてみると，今後の指導や評価のポイントが見えてくるでしょう。